

きょうだい支援
かかりつけお兄さん・お姉さん

一般社団法人ar i

1 事業実施団体について

事業実施団体の概要

- 一般社団法人ariは、宮城県仙台市を拠点にきょうだい（病気や障がいを抱える子どもの兄弟姉妹のこと）支援を2年間ほど実施してきました
- きょうだいは、様々な悩みを抱いており日々葛藤し続けながら、公的支援制度の狭間で一生懸命がんばっています
- 2023年の法人立ち上げ以降、きょうだいへの訪問支援「かかりつけお兄さん・お姉さん」を通じて30組以上のご家庭に訪問して悩みを聞いたり、子ども達のやりたいことを叶えてきました

2 令和7年度事業の実施内容

(1) 課題

- 仙台市内には、慢性疾患や障がいのある子どものきょうだいが約5,000人いる
- 親が病児のケアに追われ、きょうだい児が孤独感を抱きやすい
- 学校や医療機関では支援体制が確立されておらず、健常児であるがゆえに支援の手が届きにくい。保護者も医療・経済的負担から社会的孤立に陥りやすく、家族全体が支援から遠ざかる
- 仙台市においてはきょうだい児とその家族が安心して地域とつながれる仕組みの構築が課題である


(2) 事業の目的

- きょうだいが1人で悩まない社会を実現する
- 信頼できる大人・年上の存在との関係を通じて、きょうだい児の心理的安全性・自己肯定感・レジリエンスを高める
- 保護者との関係を補完し、「自分も愛されている」と実感できる時間を創出する
- 医療機関・教育機関・行政が連携し、きょうだい児支援を早期に紹介・介入できる新しい支援モデルを確立する
- 地域全体で家族を支えるネットワークを形成し、きょうだいが自分らしく成長できる仙台市を実現する

2 令和7年度事業の実施内容

(3) 令和7年度事業の目標

- 仙台市内のきょうだい児がいる家族42組と繋がる
- きょうだい42人に対して、対面支援を行う
- きょうだいへの対面支援利用者全員への継続的な意識調査の実施する
- 仙台市内の医療機関で慢性疾患や障害の診断を受けると同時に、そのきょうだいに
対し我々のきょうだい児支援が受けられる環境を作る



2 令和7年度事業の実施内容

(4) 事業の実施体制

- 事業は全て当法人が運営しております
- 税理士を顧問として迎え入れ、透明性のある運営を目指します

2 令和7年度事業の実施内容

(5) 事業スケジュールについて

- 事業スケジュールを記載してください

2025年10月～2026年3月

- ・ 訪問支援と家族交流会を継続

2026年4月～2030年3月

- ・ 訪問支援と家族交流会を継続
- ・ 他県での横展開開始

(6) 使用経費について

- 現在までの事業収支を記載してください

事業費総額 330万円

- ・ 仙台市助成金 50万円
- ・ 団体自己資金 280万円

内訳（仙台市助成金内）

- ・ 人件費 6万円
- ・ 交通費 6千円
- ・ 印刷費 1万4千円

3 令和7年度事業の実施状況

令和7年度事業の実施状況について

○事業開始時から現在までに実施している内容

- 2025年10月時点で、かかりつけお兄さん・お姉さんの利用者9家族
- 2025年10月時点で、かかりつけお兄さん・お姉さんキッズイベントの利用者5～10家族
- 新たにスタッフが9名参画
- テレビ局の取材1件、新聞取材2件（全国紙）
- 医療福祉機関9機関、家族会6団体、子ども支援地域団体2団体に本事業を当事者家族と紹介連携
- 民間財団から助成金獲得
- 2025年10月15日からクラウドファンディング実施

3 令和7年度事業の実施状況

令和7年度事業の実施状況について

- 審査結果通知時の、審査会意見への対応状況を記入してください。
- 支援対象の声を拾い上げる観点を持った、社会的意義の高い取り組みだと考えます。市内で活動する他団体とも連携し、重層的に支援の輪を広げていくことを意識しながら事業を実施してください。
- ＜その他参考意見＞
- 支援先を増やすにあたり、貴団体の人員とのバランスを考慮して活動を進めてください。